

平成 29 年度 長崎市環境調査報告書：昆虫類

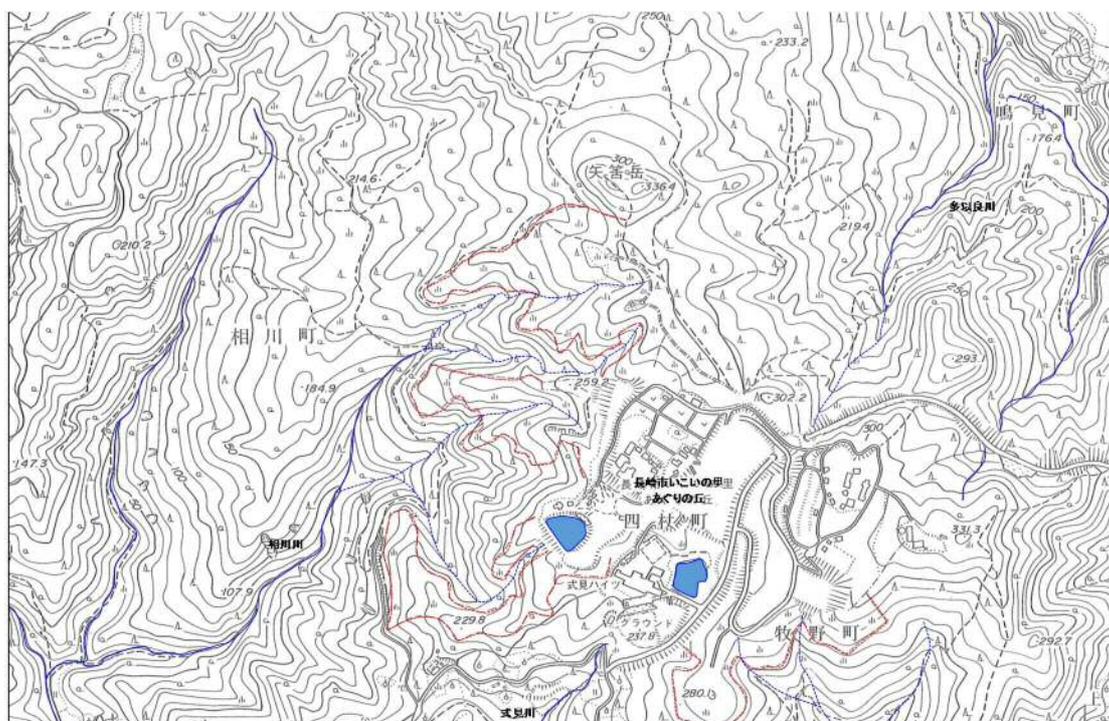
長崎市自然環境調査員 田中 清

今年、昨年の報告書で指摘した、長崎市いこいの里「あぐりの丘」及びその周辺の昆虫相、再発見したトビイロカメムシ（仮称）について、現状を把握することにしました。

なお、調査は深川元太郎氏（長崎市自然環境調査員）と長崎北高等学校理科部と共同で実施しました。

1. 長崎市いこいの里「あぐりの丘」

あぐりの丘は、旧式見牧場跡地にある長崎市の体験型自然公園です。この地の昆虫相は 1992 年に調査され、これまでに 805 種が確認されています（布袋ほか 1993、布袋 2017）。その後この地のまとまった調査報告がなされないまま 25 年が経過しています。そこで、現在の状況を把握することが目的でした。



(1) 調査について

調査範囲は、あぐりの丘の敷地、隣接する溜池、周辺の市有地（相川川・式見川の一部を含む）です（地図参照）。調査期間は 29 年 1 月～12 月（毎月 2 回以上）実施しました。

調査方法はルッキング法、スィーピング法、ベートトラップ、ライトトラップ、フィット法です。ライトトラップは 4 月～ 8 月に行い、その他は毎月実施しました。

(2) 調査結果

明らかになった主な事項は以下のとおりです。

- ①確認できた種は 1579 種でした。グループ別では甲虫 46%、鱗翅（ガ・チョウ）23%、半翅 11%、膜翅 6%の順でした。

②貴重種（レッドデータリスト〈RDL〉該当種）を52種確認しました。内訳は、国指定（環境省）15種、長崎県指定40種、長崎市指定40種です。また、グループ別では、甲虫28種、チョウ10種、トンボ8種、半翅4種、セミ1種、ゴキブリ1種です。

③外来種（長崎市外来種リスト）に掲載されている15種を確認しました。

④これらのことから、あぐりの丘一带は、市街地に隣接していますが自然環境が残存しており、多くの昆虫が生息している貴重な場所だといえるでしょう。

以下に、確認されたいくつかの種（レッドデータリスト〈RDL〉該当種）を示しておきます。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ①キイトトンボ（長崎市NT） | ②ゲンジボタル（長崎市NT） |
| ③ヒメボタル（長崎市VU，長崎県NT） | ④アオマダラタマムシ（長崎市VU，長崎県NT） |
| ⑤コカブトムシ（長崎市VU） | ⑥アオカナブン（長崎市EN） |
| ⑦シロスジカミキリ（長崎県NT） | ⑧オオシロオビゾウムシ（長崎市・長崎県NT） |
| ⑨メスグロヒョウモン（長崎市NT） | ⑩マダラゴキブリ（長崎市NT） |





2. トビイロカメムシ（仮称）の現状

トビイロカメムシ（仮称）は1992年に旧式見牧場跡地（長崎市いこいの里あぐりの丘）で初めて捕獲され、レッドデータブック（RDB2001）に記載されましたが、その後まったく捕れず、学名の決定もなされないまま、謎のカメムシとされていました。昨年報告したように、市内の三重田町に生息していることが分かりました（現在、長崎市RDLではENに指定されています）。そこで、引き続き野外調査（月2回）と飼育実験を行って、生息環境や生活史を調べ、基本事項が明らかになりました。

(1) 生息地と環境

①九州では、熊本県天草市と長崎市のみで確認されています。

②生息には次の条件を満たすススキ（またはトキワススキ）と夜間に光が届かない環境が必要です。

- 株周り2m以上
- ひげ根が発達
- 腐植が厚く堆積
- 柔らかい土壌
- 多くの植物に覆われ風雨の影響が小さい
- 株の根元が暗い
- 土壌pHは弱酸性

(2) 生活史など

①♀が♂より大型で、生殖板の形態が雌雄で異なります。

①卵から成虫までは約1ヶ月が必要です。幼虫は5齢が終齢です。

②成虫は年2回発生します。春に羽化した成虫は産卵後死亡しますが、秋に羽化した成虫は越冬して、翌年産卵して死亡します。

(3) 学名決定へ

2018（平成30）年1月に、日本原色カメムシ図鑑の著者の一人である石川忠氏（東京農業大学）に、これまでに採集した標本・データの一部を提供しました。後日、今年中に学名を決定したいとの連絡がありました。

参考

①成虫（左：♂、右：♀）

②4齢幼虫

③老熟幼虫

④生息地

